

令和7(2025)年度

那須塩原市 市政運営方針(概要)

令和7年(2025年)2月

那須塩原市長 渡辺 美知太郎

那須塩原市誕生20周年の節目の年

令和7年度は、那須塩原市誕生20周年を迎え、これまでの歩みを振り返りつつ、更なる発展を目指していく重要な節目の年であります。市として重要なミッションは、那須塩原市の付加価値を生み出すことだと考えております。都心から近く、豊かな自然と観光資源に恵まれているにもかかわらず、持てる力を十分に発揮されていないと捉え、これまで市のブランド力を高める取組を進めてまいりました。

また、この地域はかつて首都機能移転の候補地にもなったように、震災など大規模災害のリスクが低い場所です。このため、ここで暮らせば“生き延びられる”ことを広くアピールし、引き続き持続可能なまちを目指していきたいと考えております。

これまでの、市民の皆様や地域を支えてくださる多くの方々の御尽力に感謝するとともに、いつまでも住み続けられる持続可能な那須塩原の実現に向けて足元を固める取組を進めてまいります。市民及び議員の皆様には、本市の市政運営に更なる御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

2 令和6年度の総括

◆「環境分野への取組」



- ① ネイチャーポジティブ（生物多様性の回復）
- ② カーボンニュートラル（脱炭素社会の実現）
- ③ サーキュラーエコノミー（循環社会への移行）



3つの環境施策を柱として推進しつつ、
相互連携による相乗効果（シナジー）を創出

3施策の融合による持続可能な環境都市「那須塩原」の実現

ネイチャー ポジティブ

Nature Positive

- ◆ 国立公園の保護と利活用の好循環を創出
- ◆ 重要里地里山の価値を再認識
- ◆ 野生生物との共生社会を実現

カーボン ニュートラル

Carbon Neutral

- ◆ 再生可能エネルギーの最大限導入
- ◆ デコ活（脱炭素につながる新しい豊かな暮らし）
- ◆ 温室効果ガス吸収源保全

サーキュラー エコノミー

Circular Economy

- ◆ 廃棄物の資源化の推進
- ◆ 製品等の長期利用・有効利用
- ◆ 官民連携によるリニューアブルの推進

▶ 第2期那須塩原市環境基本計画改定

「2050 Sustainable Vision那須塩原」の実現に向け、具体的な施策や指標を設定

▶ 令和6年5月「SDGs未来都市」として選定



SUSTAINABLE
DEVELOPMENT GOALS



2 令和6年度の総括

◆「那須塩原駅周辺まちづくり」

「なすしおばらLife」を体現する空間

再(また)訪れたくなるような心地よい空間

那須地域・県北の玄関口として相応しい魅力的な空間

▶那須塩原駅周辺まちづくり基本計画策定（R6～R7）

駅前広場や道路を含めた駅前空間の検討に生かすための公共空間利活用の社会実験として、那須の食と文化を堪能する新たなイベント「D'harvest Walk Fest ～歩いてだべって。那須のおいしい収穫祭～」を開催

「Viehfest in Nasushiobara(フィーフェスト イン ナスシオバラ)」をはじめ、多くのイベントを開催し、本市の食を中心とした魅力を体感



2 令和6年度の総括

◆「シティブランディング事業」



▶那須塩原市ブランディング戦略の策定

市誕生20周年を契機に
「那須塩原ブランドニットプロジェクト」を始動
市民との対話によるブランディング戦略を策定
ブランディングの方向性を明確化により
市全体のブランドイメージの向上を図る

那須塩原 ブランドニットプロジェクト

Nasushiobara Brand Knit Project



市民主体の地域活性化に向けた取組 西那須野ふれあいまつり」「那須野が原開拓まつり」「黒磯日用夜市」
地域全体の一体感が醸成



2 令和6年度の総括

◆その他の主要施策「魅力創出・発信」



▶道の駅「明治の森・黒磯」リニューアルオープン 「食」と「農」そして「観光」の新たな発信拠点



▶過去の継続的な事業がもたらした成果の具現化

◇那須塩原市図書館みるるの整備

- ・市内外から多くの来館者を集める人流の拠点

◇オーストリアリンツ市との中学生交流事業

- ・これまでに約600人の生徒が参加
- ・派遣経験が価値観の多様性の形成や自立心の向上に寄与

⇒事業実施において、中長期的な視野を持って熟度を高めた事業を行うことの重要性を再確認



3 令和7年度の市政運営の基本的な考え方

◆国の動き

- ▶ 過去10年間の成果と課題
 - ✓人口減少や東京一極集中の解消には至っていない。
- ▶ 「楽しい地方」の実現
 - ✓各地域が若者や女性に選ばれるためには、地域の関係者が自ら考え、行動することが求められる。
- ▶ 基本構想の5本柱
 - ✓安心して働き、暮らせる地方の生活環境の創生
 - ✓東京一極集中のリスクに対応した人や企業の地方分散
 - ✓付加価値創出型の新しい地方経済の創生
 - ✓デジタル・新技術の徹底活用
 - ✓産官学金労言の連携による国民的な機運の向上
- ▶ 地方創生2.0の起動
 - ✓地方創生2.0を起動させる方針を示す。

⇒中長期的な視点で「地域の発展」につながる施策を考える必要がある

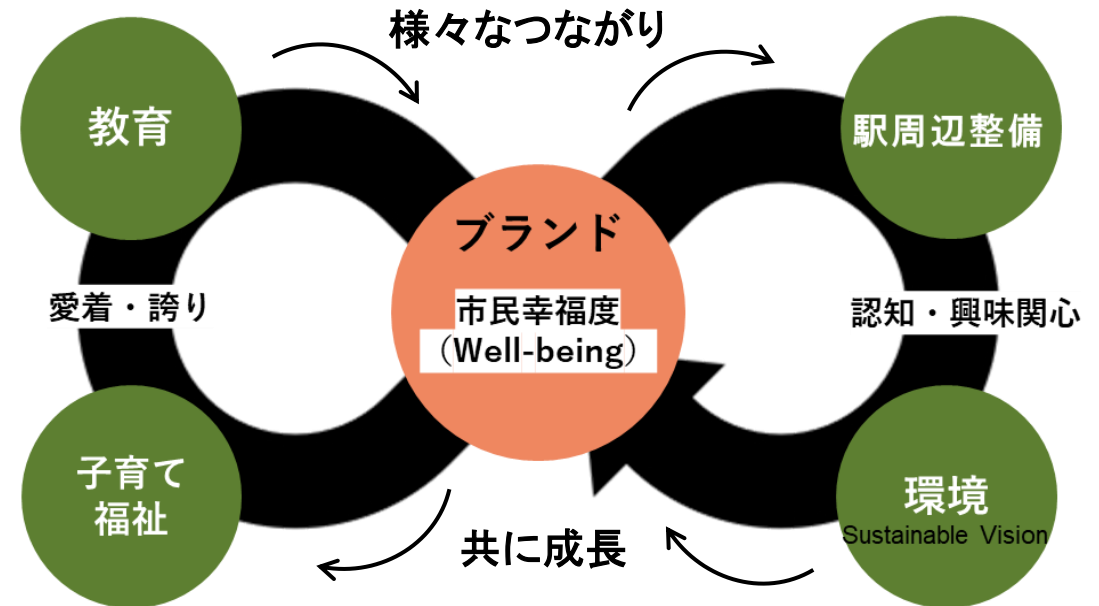
3 令和7年度の市政運営の基本的な考え方

那須塩原市ブランディング戦略を軸とした取組

- ・俯瞰的な視野で市民の幸せ(Well-being)を追求
- ・市民一人ひとりが「自分らしく生きる」ことができる環境づくり

市の付加価値の向上

移住定住人口や関係人口の増加を目指す



「住んでいれば生き延びられる」那須塩原市の実現へ

市政運営の2つの視点

資源と経済の地域内循環

共生と共創

4 令和7年度の主要施策(実施計画事業抜粋)

移住促進と 地域ブランディングの強化

シティブランディング事業

ブランドコンセプトの普及啓発、ブランドグッズ等作成

那須塩原ブランド等PR事業

農業者ブランド育成事業、ブランド品等PR強化事業

地域共創事業

起業支援プログラム、官民連携プログラム

移住・定住促進事業

移住に向けたPR、移住相談、移住・定住に向けたサポート



那須塩原駅周辺まちづくり推進事業

まちづくり基本計画の策定、民間活力の誘引に向けた取組、官民連携によるまちづくりの促進

新庁舎整備事業

市民に愛されるシティホールとなるよう整備工事に着手

(仮称) 地区センター整備事業

西那須野庁舎の活用検討

那須塩原駅周辺の
まちづくりの推進

4 令和7年度の主要施策(実施計画事業抜粋)

環境政策と持続可能な まちづくりの推進



「2050 Sustainable Vision 那須塩原」の実現に向けた取組

自然環境保護地区拡張事業

シカ侵入防止柵の設置による希少種を含めた植生の回復に関する調査、農業生態系保全、新たな生息地保全協定締結に向けた取組

資源循環推進事業

プラスチック再資源化の検証、新たな資源循環推進事業の実証



ゼロカーボンコンソーシアム運営事業

ネイチャーポジティブ那須野が原アライアンス（仮称）

における企業連携事業

行政と民間事業者との連携を具体化、民間が主体的に環境事業に取り組む

地域共創事業

起業支援プログラム、官民連携プログラム

官民連携事業
の推進

4 令和7年度の主要施策(実施計画事業抜粋)

市民との協働による 未来創造

市民懇談会や市長とのわくわくトークの実施

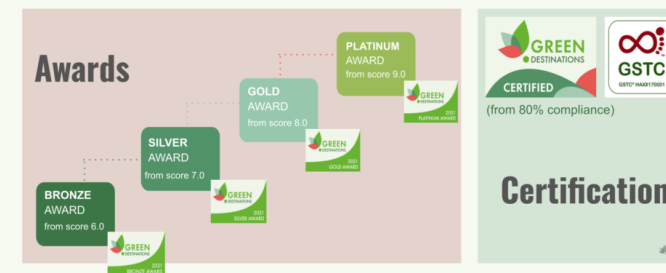
様々な対話を通じ、市政に市民の声を反映

地域コミュニティの強化や防災力向上

地域特性を活かし、持続可能な発展を目指す取組



Awards & GSTC Certification



Green Destinationsの表彰ラベル取得

サステナブル・ツーリズムの推進、環境保護や地域経済の活性化に寄与する観光施策の展開

スポーツツーリズムの推進

那須塩原スポーツコミッションを活用し、合宿や大規模大会を誘致

持続可能な
観光の推進

4 令和7年度の主要施策(実施計画事業抜粋)

教育・子育て

こども家庭センター事業

こども、子育て家庭、妊産婦に対する相談支援及び家庭支援の実施

教育DX推進

セカンドGIGA端末（タブレット端末）更新、電子黒板更新

保育士確保事業

宿舎借上支援事業費補助



DX推進

DX推進戦略

デジタル技術・データの活用による、市民サービス向上

書かない窓口・どこでも窓口の推進

手続きの省力化・効率化

公共施設マネジメントの推進

那須塩原市公共施設等総合管理計画

施設保有量の最適化、公共施設等の長寿命化、ライフサイクルコストの削減、財源の確保（未利用施設等の活用・処分等）

民間事業者との連携

市民サービスの向上と財源の確保

那須塩原市は誕生から20年の節目を迎え、「ブランドニットプロジェクト」を通して、本市での暮らしの本質的な魅力を再認識する取組を進めてきました。このプロジェクトでは、先人たちが築いてきた那須塩原という素晴らしい地域を、子や孫、その先の世代に持続可能な形でつないでいくため、地域に関わるすべての人々と共有する方針として、那須塩原の「パーパス（存在目的・活動目的）」が必要であると考えています。そして、「那須塩原市ブランディング戦略」としてキャッチコピーやロゴデザインを3月に発表する予定です。

那須塩原での暮らしの特徴は、自然と文化、都市と地方といった二項対立に偏ることなく、その中庸を保ち、誰もが受け入れられ、心地よく暮らすことができる環境であることです。この地域では歴史や街のイメージが強調され過ぎることなく、個々の自分らしさが尊重される空気感が大切にされています。この理念は、那須塩原のアイデンティティであり、ここでの暮らしの本質的な価値であると捉えています。

このような地域だからこそ、地域住民やまちそのものが持つ個性を活かし、それぞれの活動が競合せず、持続可能な共創関係を築くことができます。そして、これらの活動のつながりを促進させることで「住んでいけば生き延びられる」、「人がつながり新しい力が湧きあがるまち」の実現に近づくものと考えています。これは、各々が強い個を主張するのではなく、生物多様性が豊かな自然を創り出しているように、多くの小さな自分らしさが共存し、つながり合い、その相乗効果により持続可能なまちを形成していくことを意味しています。

今後の市政運営においては、「住んでいけば生き延びられる」環境を整えていくため「多様な活動のつながりを促し、新たな付加価値を生み出す」という視点を持ち、持続可能なまちづくりを進めてまいります。

那須塩原における「人と自然の持続可能性」を重視し、都市と地方、まちと自然、人と人との幸せな関係性を見出しながら、那須塩原に関わるすべての人々が、自分らしい暮らしを編み込んでいくことを目指します。